

自然観察

国立花山青少年自然の家

1 活動の概要及びねらい

植物・動物・昆虫・野鳥等の観察を通して自然の仕組みを知り、自然とのかかわりを考え、自然を大切にできる心を培います。

2 時期・時間・活動場所

通年・2～3時間・自然の家周辺

3 準備

自然の家で貸し出しできる物	利用者が準備する物
コース図、双眼鏡、ルーペ、メジャー、フィールドスコップ、ファール顕微鏡。各種図鑑等	軍手、筆記用具、観察用紙等

4 実施例

(1) 事前指導（説明）

観察コースやテーマ、時間等について説明します。

(2) マナー

- ① 植物をとったり、木を折ったりしない。
- ② ゴミや弁当の空き箱等は、必ず持ち帰る。
- ③ 自然界の生き物を驚かさない配慮をする。
- ④ 土や落ち葉をめくったりしたら、必ず元通りにする。

(3) 活動の展開例

- ① 直接指導タイプ
指導者が先導しながら全コースを解説します。
- ② ポイント指導タイプ
解説が必要なポイント箇所に指導者を置きます。
- ③ 課題配付タイプ
課題等を配付し、それに基づきながら観察します。
- ④ プレートタイプ
観察させたい箇所に「課題」や「観察のポイント」等を前もって配置します。
- ⑤ 自由観察タイプ
グループの話し合いで観察テーマを設定し、観察します。

5 留意点

- ・観察活動では、極力トータルな自然を観察させるようにしましょう。（例えば、植物、鳥、昆虫等と対象を限定した方法も考えられるが、そのことで他の生き物との関連まで観察がいきとどかなくなるため。）

- ・花や鳥の名前にこだわるよりも、どのような形、色、種類が、どんな生活をし、どのくらいいたか（あったか）を観察させることに着目しましょう。
- ・観察活動に「手でふれる」「臭いをかいでみる」「静かにきく」等、五感を使った動きを取り入れましょう。
- ・集中して観察できる時間には限度があるので、変化を持たせましょう。
（例：観察→さがす→観察→ネイチャーゲーム→観察等）
- ・極力時間をゆったりとって、じっくり観察させましょう。
- ・プレートタイプの場合は、活動終了後必ずプレートを回収しましょう。

6 安全対策

ウルシ、スズメバチ、マムシ等について、特に注意するよう事前指導を行ってください。